

## 末広



## お花がいっぱい

10月18日(木)、秋の花苗を配布しました。今回の配布先は、フラワーロード関連の旭硝子、JFE エンジニアリングと

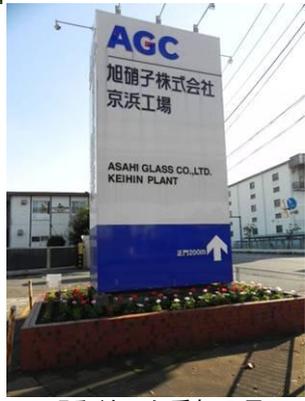


鶴見曹達の3社。フラワーロード事業は平成17年から区内道路の植栽帯について鶴見区役所が区の花サルビアなどで緑化し、日常管理を地先企業が担う協働管理体制として開始したものです。



旭硝子の花苗植付では、社員の方に立ち会っていただき、トンボみちフ

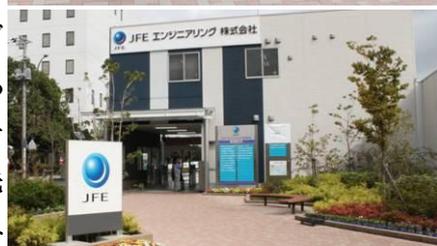
▲旭硝子看板足下の植付作業  
アンクラブと貨物線の森ファン倶楽部の有志で作業を行ないました。植付場所は産業道路沿いにある旭硝子の看板の足下と、そこから旭硝子踏切に向かう歩道上のプランター。赤色を中心にゼラニウムの花を植付ました。土の準備をした後に仮置きし、赤から



▲明るくなった看板の足下

白へグラデーションの輪を描くように配置。歩道上のプランターには、全体にゼラニウムが根付いているので、空いた所に補植をしました。

JFEエンジニアリングでは、JR弁天橋駅から正門までのアプローチに。鶴見曹達では地先の植栽帯に、社員のみなさまで植付をしていた



▲JFEエンジニアリングでの花苗植付 (画像提供: JFEエンジニアリング)



だきました。

こうした駅前や沿道の緑化により、通勤や地区を訪れる方々をはじめ、交差点で信号待ちをする歩行者やドライバーのみなさん、バスの車窓から通りを眺める方々など、多くの方々に楽しんでいただけることでしょう。



▲鶴見曹達での花苗植付 (画像提供: 鶴見曹達)

## 刈払い機の使い方講座を行ないました

10月19日(金)、東京ガス環境エネルギー館前で同館の方を対象に刈払機の使い方講座を行ないました。講師は、おなじみの園部さんです。山仕事ボランティアで習得された技術を丁寧に教えていただきました。内容は、



▲今回使用した2台の刈払い機

刈払機の基本的な動かし方から始まり、芝地での刈払い、カ



▲女性でも軽々

ヤ等の刈払い、歩道との境目で草を歩道側にできるだけ飛ばさない方法などです。実技を中心に基礎から幅広く取り上げられ、刈払機を使うのが初めての参加者にも好評でした。

### <講師から一言>

今回は、より安全なナイロンコードを使用しました。立木などのある場所を刈り込む場合は、幹への損傷を防ぐためにも、ナイロンコードを使用し立木の周りを先に刈り込みます。ただし、ススキなどは刈りづらいのでチップソーの使い方でも必ず習得しましょう。また、作業中は、周囲の人に注意し、小石などが飛んでこないよう飛散防護カバーを、正しい位置に必ず取り付けましょう。



## 地域交流イベントに出展

10月20日(土)、第22回つるみ臨海フェスティバルが開催されました。今年の来場者数は約4万8千人。会場の入船公園には70以上の展示や体験ブースが設けられ、朝から多くの方でにぎわいました。



▲協会のブース

末広地区緑のまちづくり協会もレストハウス前にテントを設置し、地域のみなさまと交流。特製クリアファイルにプリントされた京浜の森マップや、トンボみちファンクラブの通信を手渡ししながら、地域の緑を紹介しました。多くの方が周辺に緑地が多いことに驚いていました。また、いろいろな場所を



▲どこの学校？マップに載っている？

回ってみたいと話す方もいました。

地域の方々に協会の活動を周知するとともに、緑の仲間づくりを広げるきっかけとなりました。

## トンボみちから活動を紹介

10月27日(土)、生き物を育む生態系の大切さと、横浜の環境活動の多彩さを知ってもらおうと、中区日本大通の横浜情報文化センターで「ヨコハマbデイ 2012 みよう、かたろう、やってみよう！」が開催されました。講演・活動紹介・ワークショップなど多彩な内容で、末広地区の企業緑地が紹介されました。

3枚の写真での活動報告とインターネット放送を使った現場中継で活動紹介する「3ピーストーク&活動現場からの中継！」を実施。海、森、里山、流域、臨海の現場の内、臨海は「トンボはドコまで飛ぶかフォーラム」を代表し、JFEエンジニアリングの柴田さんが会場でトンボ調査の活動を紹介します。現場中継ではJFEトンボみちが集まっ



▲ヨコハマbデイ2012(CEPAジャパン主催)  
(画像提供:CEPAジャパン)

## 末広の里山？にボランティア来る

10月13日(土)、世界で初めて？の試みとして一般ボランティアによる企業緑地整備が実施されました。主催はNPO法人よこはま里山研究所。webでレンジャーズ登録をして今回の活動募集に応募してきた一般参加者は8名。主催者スタッフ2名と受入側企業2名を加え総勢12名。まずは屋上から周囲を俯瞰し現地へ移動。途中休憩をとりながら、剪定枝の搬出や落葉かきを中心に2時間半程の作業で、林床が明るくなりました。



▲明るくなった林床での作業後ミーティング  
(画像提供:JFEエンジニアリング)

### <受入側JFEエンジニアリングの感想>

手付かずだった緑地が変貌しそうです。今回の作業だけでも、森が活き活きしてきました。次回も期待しますので、レンジャーの皆さん、宜しくお願いします。

## 工都鶴見 時代をひろく夢の架け橋

10月23日(火)、ブラボー！つる魅っく！第3回「工都鶴見時代をひろく夢の架け橋」が開催されました。主催は鶴見歴史の会。鶴見区の歴史・文化・自然などの多彩な魅力を講座、見学、区内巡りを通して学ぶ全8回の講座です。

第3回の講師は鶴見歴史の会の林正巳氏。地元鶴見の発展史や、鶴見発展の大功労者浅野総一郎の功績を熱く語っていただきました。



▲第3回講座の様子

末広地区から特製のクリアファイルを配布し、協会の活動をPRしました。

たファンクラブメンバーでトンボ池やそこにいる生き物を紹介しました。当日の様子は下記サイトをご覧ください。

[http://cepajapan.org/member\\_blog/1330](http://cepajapan.org/member_blog/1330)

同日夕方のTVK「ずばり！横濱」でも「横浜の“b”～生きものがつながる まちづくり～」が放送され、京浜地区の緑を増やす活動に参加している企業の取組が紹介されました。今回取り上げられたのは、末広地区の東芝海芝公園とJFEトンボみち、生麦新子安地区の日産自動車前の貨物線の森緑道。JFEトンボみちの収録時には社員の方とともにファンクラブのメンバーも集まり、いつもの雰囲気そのままに活動を伝えました。放送内容は下記サイトをご覧ください。

[http://www3.tvk-yokohama.com/zubayoko/2012/10/1027\\_1.html](http://www3.tvk-yokohama.com/zubayoko/2012/10/1027_1.html)



## 船から見学しました

10月25日(木)、緑のまちづくり研修会船上見学「海から見える緑」を開催しました。協議会会員企業7人、行政7人



▲弁天橋駅前整備の説明



▲オープンデッキから見学

内のポンツーンから乗船させていただきました。

ご案内は横浜シティガイド協会の椎橋さん。細かい水路を丁寧に巡りながら、立地企業の歴史や緑化状況の話をしていただきました。

ご参加の方からは「自社の敷地をこのようにして見る機会が無いので、参加できてとても良かった。」「いつも行っている場所が海から眺めるとどこなか

かわかった。」「特段の手入れもせずに生長した緑もあれば、手入れが出来ずツル性の植物に覆われた緑もあり、様々な緑の状況を見ることができて良かった。」などの声がありました。

、緑化市民ボランティア15人、ガイド市民ボランティア16人、一般10人の55人が参加されました。

まず、末広地区の弁天橋駅前にてJFEエンジニアリング担当者から、駅前を誰もが憩えるような広場として整備された説明を受け、その後に乗船場所へ移動。今回はユニバーサル造船担当者のご尽力により工場



▲植樹後8年が経った港湾緑地



▲恵比須町辺りで天候も好転



▲見学行程とお世話になった女性船長



鶴見区や神奈川区の臨海部では、企業の皆さまのご協力により徐々に水辺の緑地が増えてきてはいますが、まだまだ決して多いとは言えません。企業の皆さまに加え、市民、行政で協力しながら、更に地域の緑や海に開かれた場所を増やしていくことが期待されています。

## 緑のめぐり道 生麦新子安地区 ～赤い電車と2つの駅～

一見、カエルの顔？ 京急電車の顔にも見える？

題字の緑のめぐり道とは、生麦駅から産業道路と貨物線の森緑道をつないで、京急新子安駅を結ぶ経路。臨海部産業地域への通勤路でもあります。カエルの目に見えるのは、2つの駅。だから鉄道の地図表示で結ばれています。下部のU字二重線は産業道路、ハーモニカに見えるのが貨物線



▲生麦新子安地区のピブス

跡地(緑道)。そして、内側の波は産業地区発展の様子です。

生麦事件を発端とした明治維新によって京浜間の近代化は、怒涛のように進み、いち早く鉄道が敷かれ両駅も誕生しました。ところで、京急車両はなぜ赤いのでしょうか？

アメリカの旧パシフィックエレクトリック電鉄。その車体色から「レッドカー」というニックネームを持っており、京急の赤い電車はこのPE電鉄にならったといわれています。



▲(左)京急車両と(右)PE電鉄のレッドカー(1955年・ロサンゼルス)

<生麦駅>駅が開業したのは、明治38年。川崎～神奈川間が開通し、品川～神奈川間の全通にあわせて設置。大正時代には、住宅地開発。さらにキンビールが移転してくるなど、生麦駅は時代と共に発展していきました。現在の駅舎は、昭和42年に完成。京急線の駅では、初の橋上駅でした。平成5年に初めてエレベーターを設置した駅でもあります。

※生麦駅では通過列車の際、通過警告音を使用しています。現在はライザ・ミネリ『ニューヨーク・ニューヨーク』が流れてきます。<京急新子安駅>駅ができたのは、明治43年のこと。当時の駅名は「新子安」で、その後、昭和18年に国鉄新子安駅の開業に伴い「京浜新子安」となり、現在の「京急新子安」になったのは、昭和62年から。駅南側一帯の埋立の先駆者・守屋此助の業績は確実に実を結び、神奈川産業道路とともに現在も京浜臨海部の礎となっています。新子安橋を渡り、右に下りると守屋此助の顕彰碑があります。

**植樹から防災へ ～緑がつなく地域の絆～**

「119番の日」である11月9日から15日までの秋の火災予防運動期間中、各所でイベントや訓練などが行なわれます。防災に関して、神奈川区の臨海部では企業と地域が連携して活動をしています。

生麦新子安地区の神奈川区域を中心に、昨年11月には東日本大震災を受けて市内で初めて地域と事業所等が連携する津波避難訓練を行ないました。この背景には、平成21年1月に京浜臨海部に立地する複数の事業所等と周辺地域で広範かつ総合的な防災協定を締結し、その円滑な運用を目的として同年3月「新子安・子安通1丁目・入江地区及び神奈川区臨海部防災協議会」が組織され、地域の防災拠点である市立子安小学校において地域・事業所・行政等による合同防災訓練が行なわれていた経緯があります。もともと防災に対する意識が高く、平成20年1

月に子安通三丁目自治会と新日本石油精製(株)で震災時における避難場所提供に関する防災協定を締結していました。

それ以外にも、平成20年3月に当時の市立子安小学校6年生98人がドングリから3年間にわたり育ててきた苗木を近隣企業であ



▲日亜化学工業での植樹の記録

る日亜化学工業の緑地に植樹したことで、小学校と企業の間につながりができました。

埋立地の工業地帯と運河をはさんだ地域とは、近くて遠い関係でしたが、このようなつながりが大きく強い絆になっていくことが期待されています。

「新子安・子安通1丁目・入江地区及び

神奈川区臨海部防災協議会」会員企業（設立時点）  
昭和電工(株) 横浜事業所、新日本石油精製(株) 横浜製造所（現 JX 日鉱日石エネルギー(株) 横浜製造所）、千代田化工建設(株) 子安オフィス・リサーチパーク、日亜化学工業(株) 横浜技術研究所、日産自動車(株) 横浜工場、日本ビクター(株) 本社工場（現 (株)JV Cケンウッド）、(株)バンテック、極東開発工業(株) 横浜サービスセンター、マツダ(株) マツダ R&D センター横浜の9社

**「貨物線の森ファン倶楽部」から**



▲10月14日 大黒町

「正しい道具の使い方教室」をしましょう、との声も。

10月20日(土)は、新子安橋のプランターを手入れしました。花たちも涼しくなって元気に。その後、沿道のゴミを拾いながら昭和電工前の植え込みや恵比須町の植樹地の草刈、手入れを行いました。

今月は春に向けて球根の植付や種まきをします。ご参加お待ちしております。

- ①チューリップ球根植付 11月11日(日) 9～12時 大黒町
  - ②菜の花種まき 11月17日(土) 9～12時 恵比須町
- 12月の活動日は9日(日)と15日(土)です。



▲10月20日 新子安橋等

**11月18日 記念シンポジウム**

11月18日(日)13:30～16:30 崎陽軒本店6階(西区)でトンボはドコまで飛ぶかフォーラム 10周年記念シンポジウム「企業緑地といきものたち」が開催されます。基調講演に進士五十八氏をお迎えして、市民、企業、行政、専門家の連携により10年間にわたって実施した調査結果から、企業緑地がもつ生物多様性に対する価値や意味を考えます。

**編集担当から**

◆先日、一緒に緑化活動をしている方から末広地区の先端で釣った魚をいただきました。臨海部の活動に行くたびに、環境の豊かさを感じていますが、何より、温かく優しい、人の豊かさを実感しています。(Y)

